

長月号 道徳だより



テーマ:指導方法の工夫「役割演技・動作化」って？

京都市道徳教育研究会
会長 前田 恵美
広報部 部長 保本 貴之
副部長 宮田 勝行
尾花 陽一朗



「うんとこしょ、どっこいしょ」

それでも『かぶ』は抜けません」

みなさんご存知、「おおきなかぶ」の一場面です。このお話を子どもたちに聞かせる時、必ずと言っていいほど、「役割演技・動作化」をする

のではないのでしょうか。実際にやったり、その様子を見たりできることで内容を捉えやすくなる、児童の意欲や関心が高まるなど、非常に理にかなっている方法であると言えます。それは道徳科でも同様です。

まずはじめに…？ — 役割演技・動作化を行うことの意図とポイント —

役割演技・動作化を行うことで、児童の思考や心の様子は「アクティブ」になります。しかし、ただ楽しそうに活動をしているだけで終わってしまうのはもったいないです。是非、効果やメリットを捉えた上で、意図やねらいをもって行うようにしてください。

役割演技・動作化を
心情理解 のために

実際に役割を演じたり、動作をしたりすることで教科書の文面では分らなかったことに気付いたり、考えたりできます。演じた人に思いや考えを尋ね、見ている側と共有するのが一般的です。

役割演技・動作化を
「何のために」行いますか？

演じてみることで初めて気がついたよ。



演じているのを見ることで自分はどうすればいいのかが分かってきたよ。

役割演技・動作化を
資料理解 のために

資料理解（状況・場面・人間関係等）が不十分だと、道徳的行為・心情への理解に至れず、児童の困り、分かりにくい授業につながります。具体的な場を設定し、発言したり、行動したりすることで資料理解につながり、道徳的行為・心情の理解に至ります。

目的や実態に合ったものを — 役割演技・動作化のしかたや流れ —

「役割演技・動作化をしてみよう！」「どんな流れでやったらいいのかな」、活動の方法やポイントを例示しました。授業者の意図、児童の実態、時間配分…いろいろな面から検討し、組み合わせせて取り組んでみて下さい。

児童に伝える時に — 見通しをもたせる，捉えさせる工夫 —

◆テレビに映す◆



台詞や流れを①～④，吹き出しで示します。児童の「簡単そう」「やってみよう」につなげられるようにシンプルにしましょう。

◆事前に録画し，見せる◆



全員に同じものを，同じ角度から見せることができます。再生途中で止め，補足説明もできます。

◆児童・教師ペアで行う◆



教師が参加し，コーディネートができることの他に，児童の個性やよさに応じた発問や揺さぶり，切り返しの発問ができます。

こんな感じ？ — 「役割演技」の流れ —

◆「演技しない児童」も 役割の1つに…◆

- ①演技の流れや説明をし，教師と児童，児童同士で役割演技をする。
- ②適宜，演技をした児童に気付きや思ったことを発表させる。
- ③演技をしていない（観客）児童に，「見ていてどうだった？」と表情や動作から，気付いたことや思ったことを尋ね，発表させる。（事前に「お客さんにも聞くからね」と伝えたり，「この部分を見てね」と視点を与えたりするのも効果的）
- ④ ①～③を状況に応じて繰り返したり，組み合わせを変えたりして行う。

◆「演技」を使い分けて◆

- ①教師と児童でやりとりのモデルを見せ，気付きをワークシートに書く。

可視させるための演技



- ②ワークシートに書いたことをもとにペアで演技をし，考えを共有したり，深めたりする。

各々表現のための演技



- ③全体の場合（黒板前）で，交流のペア同士でやりとりをする。

相違点に注目するための演技

◆たくさん演技させ， たくさん見合う◆

- ①演技の流れや説明をし，教師と児童，児童同士で役割演技をする（10組程度）
- ②慣れてきたら，「次からはやっている人の心の声を聞いてみよう」等，声をかけ，気付きや思ったことも発表させる。
- ③発展させられそうなら，「どんな動きをしそうかな」「この続きでどんなことを言そうかな」など演技の幅を広げ，一層多面的・多角的に演技をしたり，見たりできるように補助発問する。



役割演技は，児童の意欲も活動も「アクティブ」にするものです。よりよい学習活動となるよう，「何のために？」「どういうことをねらって？」をしっかりと捉え，行うことが大切です。